

在宅取組型(小学校)

学校名等	関ヶ原町立今須小中学校
実施日時	令和2年7月13日(月)～2年9月30日(水)
会場	各家庭
参加人数	全校児童生徒80名・保護者
学習課題(分野)	親子でふれあい活動(家族の大切さ)
運営者の願い	親子で一緒に活動する内容を考え、実践することで家族の大切さや、家族と過ごすことの喜びを感じてほしい。

学習の内容

<取組みの流れ>

- ① 6月:学級委員会の企画内容について検討する案内を出す。
- ② 7月:学級委員会で企画された活動を案内文で紹介する。
- ③ 2ヶ月の取組み期間を設け、実践したことをカードに記入し、感想を加えて学校に提出する。
- ④ 9月:学級で夏休みの思い出を紹介しあう場を位置付ける。
- ⑤ 9月:学級での紹介が終わり次第、職員室前に掲示をして、実践内容を見合うことができるようにする。

雛案の親子ふれあいカードの記入例。カードには「親子でふれあいカード」というタイトルがあり、学年・名前、親子で取り組むことを書く欄、感想を書く欄、お褒めのメッセージを書く欄があります。写真や絵で活動の様子を紹介するよう促されています。

【記入例を紹介した案内】

実際に提出された親子ふれあいカードの例。写真で活動の様子（自転車に乗る子どもたち）を紹介し、「ぼくは父さんと一しょに自転車で不破の滝に行きました。その日、ぼくはとても暑かったので汗をたくさんかきました。だから滝つぼで頭をぬらしたら冷たくて気持ちよかったです。」という感想が書かれています。

【実際に提出されたカード】

<活動後の保護者からの感想>

- 晩ご飯のお手伝いありがとう。とても助かりました。また時間がある時に、一緒に料理を作りましょう。
- 暑い中、(自転車でのサイクリング)本当によくがんばったと思います。またサイクリングに行こう。
- お父さんに手作りのプールを作ってもらって兄弟みんなでプールに入って遊んだね。来年は家族みんなでプールに行けるといいね。

<取組の成果>

- 家族が一緒に活動することで、家族の大切さや、家族がいる喜びをお互いに感じる家庭が多くあった。
- 取組カードがあることで、活動を真剣に考えて取り組む家庭が多く、カードと一緒に記入することもコミュニケーションを増やすきっかけとなった。
- 回収したカードを校内掲示することで、仲間の活動を見る児童生徒が多く、仲間同士のコミュニケーションや関わりを増やすきっかけにもなった。



学級委員会による主体的な活動

- ◎ 毎年学級委員会が企画運営している「親子ふれあい活動」を新型コロナウイルスの予防の観点から、取組内容を改善した。
- ◎ 記入例を示すことで、カードの記入の仕方を分かりやすくし、紹介する内容は、イラストでも写真でもよいとしたことで、カード記入への負担感を少なくしている。



【全校分のカードを紹介する職員室前の掲示板】



家族の関わりを創り出す取組

- ◎ 各家庭で考えていただく内容であるが、「家族と一緒に行く」というただ一つの目標を設定することで、一緒に活動を考え、活動し、笑顔を増やす活動となった。